

国語科学習指導案（2年2組）

- 1 単元 平家物語の魅力を群読で伝えよう
——描写の効果や登場人物の言動の意味を考えて作品の魅力を読み取る——

2 考察

(1) 教材観

①学習内容<学習指導要領上の位置づけ>

「平家物語」は栄華を極めた平家一門の没落の姿が、「諸行無常」という仏教思想を背景に語られている軍記物語である。漢文調のリズムや効果的に擬音語が使われていることに加え、登場人物が強く思いを語る場面があることから、描写の効果や登場人物の言動の意味を考えて朗読することに適した題材であると言える。

本単元は、描写の効果や登場人物の言動の意味を手がかりに作品の魅力を読み取る力を育成するものである。そして「朗読」という形で読み取った魅力を表現する力を養うものである。<C(1)イ 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。>

②伸ばしたい資質・能力

- ・描写の効果や登場人物の言動の意味を考えて、作品の魅力を読み取る力。
- ・相手意識をもって読み取った作品の魅力表現する力。
- ・文章の特徴を生かして朗読し、古典の世界に親しむこと。

③そのために必要な指導・活動

- ・群馬大学の藤本教授による「無常」の解説を基に、「無常」という視点をもって作品の魅力を読み取っていけるようにする。
- ・描写の効果や登場人物の言動の意味を考えて、内容を理解するために、「思考ツール」を用いてグループでの学び合いを通して読み解いていく。
- ・文章の特徴を生かして朗読し、古典の世界に親しむための言語活動として、学年対抗「群読発表大会」を設定する。それぞれが読み取った「作品の魅力」が伝わるように群読の台本を考え、朗読することで、古典の世界に親しむことができるようにする。

④今後の学習での活用

- ・第3学年の題材「おくのほそ道」において、本題材で感じた「無常」を軸に、作品に表現されているものの見方や考え方を深めていくことにつなげる。

(2) 生徒の実態（男子20名、女子19名 計39名）

①これまでの既習の内容

- ・第1学年の題材「竹取物語」において、我々地上の人間と、不老不死である月の都の天人とを比べ、竹取物語の魅力について120字程度の作文を書かせた。作品からは「月への憧れ」や「別れの悲しみ」「(悩みを感じない月の天人に対して) 悲しいことを悲しいと思える、人間の感情の素晴らしさ」など会者定離（命ある者は必ず死に、出会った者は必ず別れることになる）という考えにつながることを読み取っている様子が見られた。
- ・第1学年では自分の考えの形成について、グループの話合いによる学習を行ってきた。その際にホワイトボードをグループの中心において自由に書かせたり、話合いの最中のつぶやきを記録させたりして考えを形成させるようにした。第2学年の1学期にホワイトボードにまとまる際に「思考ツール」を使ってまとめるよう促した。その後の学習においても、生徒それぞれが使いやすい「思考ツール」を使って、読み取ったことをまとめたり、整理して発表したりするようになってきた。

②本単元に関わる実態

- ・古典の世界に親しむことについては、調査の結果、26名の生徒が古典に対して関心を抱いている。一方で、20名の生徒が古典の学習を苦手だと回答している。理由として、「文語表現を現代の言葉に直すのが大変だから。また、どのようなものか分かりづらいから。」や「なぜその人がそう思ったのか、人の気持ちになるのが難しい。」と答えている。「好き」・「得意」と答えた生徒の理由としては「意味を理解しながら、声に出して読んでいたら覚えら

れたから。」や「覚えられたりすると楽しいし、昔の人の気持ちがわかるともっと楽しいから。」が見られた。そこで本題材では、グループでの話合いと全体での意見の交流の際にお互いの意見をつなげることで理解を深めさせ、作品の魅力を味わわせたい。

- ・描写の効果や登場人物の言動の意味を考えて、作品の魅力を読み取る力については、事前に合唱コンクールの自由曲の歌詞を読み取る授業を行うことで調査した。その際に歌詞の主題や魅力を読み取ることができた生徒は39名だが、読み取る方法について具体的に説明できた生徒は21名に止まった。「歌詞を繰り返し読んで、大切そうなところに線を引いた。」といった、文学的文章の読み取りを生かす生徒もいる一方で、「分からないところに線を引いて、班の友達との話合いを通して読み取った。」といった、グループでの学び合いを生かして読み取った生徒もいた。引き続き、グループでの学び合いを通して読みを深めさせたい。
- ・読み取った作品の魅力を表現する力に関して、朗読についての工夫について書かせたところ、「強弱」「速さ」「間の取り方」など具体的に書けた生徒は19名いた。およそ半数の生徒は具体的に示すことができなかつたため、朗読を工夫する視点についても気付かせたい。

3 単元の見目標

どのように読めば伝わるか考えて朗読の仕方を工夫することで、描写の効果や登場人物の言動の意味を手がかりに「平家物語」の魅力を読み取る。(読むこと イ)

4 指導計画 (全7時間予定)

評価規準	【関】描写の効果や登場人物の言動の意味を考えて、「平家物語」を読み、「平家物語」の魅力が伝わるように朗読しようとしている。		
	【読】描写の効果や登場人物の言動の意味を考えて、「平家物語」の魅力を読み取っている。(イ)		
	【言】平家物語の特徴を生かして朗読し、作品の世界を楽しんでいる。ア (イ)		
時間	伸ばしたい 資質・能力	主な学習活動	具体的評価規準
第1時	・古典に表れたものの見方や考え方に触れて、登場人物の思いを想像すること。	○群馬大学の藤本教授による「無常」の特別授業を受け、「無常」という視点をもつ。	【言】「平家物語」に表れたものの見方や考え方に触れ、人物の思いを想像している。(ワークシート)
第2時 第4時 (本時)	・描写の効果や登場人物の言動の意味を考えて、作品の魅力を読み取る力。 ・相手意識をもって読み取った作品の魅力を表現する力。	○群読発表大会に向けて「平家物語」の魅力を読み取っていくという学習課題をつかむ。 ○「敦盛の最後」を読んで、作品の特徴や魅力を捉える。 ○「思考ツール」を活用して、本文の理解を進めていく。 ○登場人物の思いを想像して、台詞を朗読する。	【読】描写の効果や登場人物の言動の意味を手がかりに「敦盛の最後」の魅力を読み取ることができている。 (観察・ワークシート)
第5時 第7時	・相手意識をもって読み取った作品の魅力を表現する力。 ・文章の特徴を生かして朗読し、古典の世界に親しむこと。	○「扇の的」を読んで、作品の特徴や魅力を捉える。 ○登場人物の思いや、作品の特徴を生かした群読の分担を考える。 ○群読発表大会で「平家物語」の魅力を生かした群読を発表する。	【関】描写の効果や登場人物の言動の意味を考えて、「平家物語」を読み、「平家物語」の魅力が伝わるように朗読しようとしている。(観察) 【言】漢文調のリズム、オノマトペ、登場人物の言動などの特徴を生かして朗読している。(観察)

6 本時の展開 (4/7)

- (1) **目 標** どのように読めば伝わるか考えて朗読の仕方を工夫することで、描写の効果や登場人物の言動の意味を手がかりに「敦盛の最後」の魅力を読み取る。
- (2) **準 備** 伝え合う言葉 中学国語2 (教育出版)、新国語便覧 (秀学社)、ホワイトボード、ワークシート、タブレットPC
- (3) **展 開** (研究に関わる手だて、◎評価項目に対する補充的な支援)

学習活動と予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価
○単元全体のねらいとともに、本時のねらいを確認する。	2	○見通しをもって授業に臨ませることで、主体的に学ぶ意欲が高まるようにする。
「敦盛の最後」の魅力が伝わる場面を考えて朗読しよう		
○グループで「敦盛の最後」を読んで、内容の確認をする。	5	○一方が原文を読んだ後、もう一方が口語訳読み合うことで、内容を捉えやすくする。
○グループで、生徒それぞれが感じた「敦盛の最後」の魅力が伝わる場面について理由も含めて発表し合う。	18	○効果的な話し合いが行われるように、ルールを徹底させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・発表者の発表に対して、さえぎらずに耳を傾けて聴こう。 ・分からなければ、どこが分からないかをはっきり言おう。 ・ホワイトボードは各自が自由に書こう。 ○「 <u>思考ツール</u> 」を使って <u>思考の過程を可視化するよう促すことで、相手に伝える意識をもって意見を出せるようにする。</u>
<ul style="list-style-type: none"> ・今にも首を取られようとしているのにもかかわらず、「ただとくとく首をとれ」と言った敦盛の潔さ、立派さ。 ・直実は手柄をあげようとしていたのに、自分の子供と同じくらしい敦盛を見て、助けようか思い悩むところ。 ・手柄をあげようとしている源氏に対して、討たれた敦盛が腰に笛を差していたところ。 	15	○藤本先生の講義の内容、今までのワークシートやホワイトボードを振り返らせることで、 <u>関連付けながら「敦盛の最後」の魅力について考えることができるようにする。</u> ○意見が出ずに話し合いが滞った場合には、疑問が解決できずにいるグループの話題を紹介することで、話し合うきっかけを作れるようにする。
○全体での交流を通して「敦盛の最後」の魅力を読み取る。	10	○グループごとにホワイトボードに記入したものをモニターで映しながら説明させることで、思考の過程を共有できるようにするとともに、相手意識をもって発表できるようにする。
<ul style="list-style-type: none"> ・手柄をあげようとした直実が自分とは対照的で優雅な敦盛に心を動かされ、出家を決心したところがいいと思った。でも、ここで勝った源氏も滅びてしまうんだなあ。 		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【読】 描写の効果や登場人物の言動の意味を手がかりに「敦盛の最後」の魅力を読み取ることができている。(観察・ワークシート)</p> </div>
○読み取った「敦盛の最後」の魅力が伝わるように、工夫して朗読の仕方を考える。		◎どうしても書くことができない場合には、今までのワークシートを読み直させたり、自分たちや他のグループのホワイトボードを読み直させたりして、登場人物の言動の意味を考えさせる。
<ul style="list-style-type: none"> ・「あないとほし〜」に今までの自分たちが行ってきたことを振り返り、優美な敦盛を討ってしまった後悔をあわせて、敦盛の亡骸に向かって語りかけるように読む。 		○朗読の際には「明暗」「強弱」「速さ」「間の取り方」「誰に向けて言っているか」などを意識させて朗読することで、登場人物の思いを表現できるようにする。

<目標とする生徒の意識>

- ・手柄をあげようとした直実が自分とは対照的で優雅な敦盛に心を動かされ、出家を決心したところがいいと思った。平家はいったんは栄えたけど、滅びていく。でも、ここで勝った源氏も滅びてしまうんだよなあ。
- ・ステップチャートを使って整理していくと、直実が仏門に入ろうとする気持ちの揺れ動きが伝わってきた。